

教育センター学びの丘研修員研修における学びについて

田辺市立三栖小学校

教諭 倉尾友美子

和歌山県教育センター学びの丘における研修員としての1年間で、多くの研究と修養を重ね、教育に関する専門的・技術的知識についての理解及び教員としての資質・能力の向上を目指してきた。その1年間の学びについて述べる。

修養では、様々な分野やキャリア段階の研修を聴講したことで、視野を広げることができた。特に、ミドルリーダーとして多様な役割が求められていることや、どのような役割を果たしていくべきかについて学んだことは、学校組織の一員として自身ができることを考える機会となり、今後の教員生活に生かすことのできる学びとなった。

研究では、PBS（積極的行動支援）の視点を授業づくりに取り入れ、児童の望ましい行動を増やす支援の在り方について検討した。支援検討シートを基にした児童の行動分析から問題行動のきっかけや結果を明らかにし、PBSの視点を学習環境の設定、学習活動の工夫、評価方法の工夫の3点に設定した。これらの視点を取り入れた授業実践を行い、望ましい行動を増やすことができた。

また、自身の考えにはなかった新たな視点を持ち合わせている校種や経験の異なる他の研修員と、日々、切磋琢磨することができた。

今後は、自身が1年間の学びを学校現場に還元し、和歌山県の教育の進展に貢献していきたいと考える。